

2024. 6. 21

# 「忘却は再び悪夢生む」

## 朝鮮人追悼式 実行委員長が講演

### 差別禁止法 を求めて

時代の正体

東京都の小池百合子知事が関東大震災で虐殺された朝鮮人への追悼文の送付を拒み続けている問題で、追悼式典の実行委員長、宮川泰彦さん（日朝協会東京都連会長）が20日、東京・永田町の参院議員会館で講演した。「小池氏は日本人が罪のない朝鮮人の命を奪った負の歴史を認めたくないのだらう。忘却は再び悪夢を生む」と批判した。

虐殺は当時日本の植民地だった朝鮮の人々を見下し、支配に従わない「不逞」な存在とみなす民族差別が

千人とされる。

歴代知事は都立横網町公園での式典に1974年から毎年追悼文を送ってきたが、小池知事は就任2年目の2017年からやめた。

宮川さんは、追悼碑の撤去を求める差別団体「日本女性の会 そよ風」と極右・排外主義者の故・古賀俊昭都議の呼びかけに同調した結果だと指摘。「事実を認め、語り継ぐことに何の問題があるのか。追悼は人として当たり前な行為はずで、小池氏の価値観や歴史との向き合い方が拒否させている」と分析した。

この日は都知事選の公示日で小池氏は3選を目指して出馬した。宮川さんは神奈川新聞社の取材に「注目の候補者である蓮舂氏が追悼文を出す姿勢を表明しており、大きな争点になってほしい」と期待する。「反省しなければ過ちは繰り返される。都民の安全な暮らしを守るためにも、追悼文を出す知事こそがふさわしい」と話した。（石橋 学）



虐殺の歴史を認めない小池知事を批判する宮川さん  
|| 東京・永田町の参院議員会館